

# CATALYST

5, 5Ti

製品取扱説明書

Ki Mobility

# I. イントロダクション

## Catalystをご購入いただきありがとうございます!

はじめにこのマニュアル全体を読むことなく、この車椅子を使用しないでください。乗車する前に、担当医・セラピスト・車椅子販売店によるこの車椅子の安全な使用に関するトレーニングを受ける必要があります。

この車椅子、このマニュアル、弊社またはお客様の小売業者が提供するサービスについてご質問やご不明な点がある場合は、お気軽に電話でお問い合わせください。

株式会社ユーキ・トレーディング  
〒110-0008  
東京都台東区池之端2-5-46  
TEL : 03-3821-7331  
FAX : 03-3821-7552  
MAIL : [info@yukitrading.com](mailto:info@yukitrading.com)  
HP: [www.yukitrading.com](http://www.yukitrading.com)



## II. 目次

I.	イントロダクション	
II.	目次	
III.	通知 - 使用前にお読みください	
A.	安全にご利用いただくために	4
IV.	警告	
A.	注意喚起の用語	4
B.	一般的な警告	5
C.	ポジショニングベルト	6
D.	乗車時	7
E.	電動ユニット	8
F.	上り階段	8
G.	下り階段	8
H.	移乗	9
I.	車椅子と使用環境	9
J.	車椅子の改造	10
K.	車椅子の安定性	10
V.	車椅子のセットアップと使用	
A.	Catalystと付属部品	12
B.	車載時について	14
C.	高さ調整式 T型アームサポート	17
D.	スイングアウト式アームサポート	18
E.	角度・長さ調整式フリップアップアームサポート	19
F.	高さ調整式 フリップバックT型アームサポート	20
G.	フリップバック/高さ調整式フリップバックアームサポート	21
H.	アームサポートの警告	21
I.	ハンガー	22
J.	4-Wayタイププラッチ付スイングアウェイハンガー	23
K.	延長チューブ	24
L.	エレベーティングフットサポート	25
M.	Proエレベーティングフットサポート(Pro-ELR)	26
N.	マルチアングル調整式アルミフットプレート	27
O.	高さ調整式バックサポート	28
P.	座奥行調整式バックサポート	28
Q.	Catalyst 背折れ式バックサポート	29
R.	Catalyst リクライニング式バックサポート	30
S.	ホイールの取付け・取り外し(一部モデルではオプション)	32

## II. 目次

T.	Catalyst - フレームの折り畳み	35
U.	シート生地	35
AA.	ブレーキ	36
BB.	キャスター/フォーク	37
CC.	キャスター角調整	37
DD.	転倒防止装置(オプション品)	38
EE.	スイングイン転倒防止装置(オプション品)	40
FF.	シートスリング	41
GG.	クッションの利用	41
HH.	酸素ボンベホルダー	41
II.	キャノピー	42
VI.	メンテナンス	
A.	車椅子の点検	43
B.	洗浄	45
C.	保管	45
VII.	保証	46

# III. 通知-使用前にお読みください

## A. 安全にご利用いただくために

Ki Mobilityは、ニーズに合ったさまざまな車椅子を製造しています。特定の要件に最適なモデルや、車椅子のセットアップおよび調整方法を選択する際には、担当医・セラピスト・車椅子販売店に相談してください。車椅子の種類、オプション、調整の最終選択は、あなたと彼らあなたの医療専門家ののみが行います。選択したオプション、車椅子のセットアップと調整は、その安定性に直接影響します。安全性と安定性に影響する考慮すべき要素は次のとおりです。

- a. 筋力、バランス、適合など、個人の能力。
- b. 日中に遭遇する可能性のある危険と障害の種類。

特定の寸法、オプション、セットアップ。特に、シートの高さ、シートの奥行き、シートの角度、バックレストの角度、後輪のサイズと位置、フロントキャスターのサイズと位置。これらのアイテムのいずれかを変更すると、車椅子の安定性が変わります。資格のある専門家に相談してから変更を行う必要があります。

# IV. 警告

## A. 注意喚起の用語

このマニュアルには、注意喚起の言葉が記載されています。これらの単語は、さまざまなハザードの重大度を識別して伝えるために使用されます。この車椅子を使用する前に、あなたとあなたを介助する人は、このマニュアル全体を読んでください。注意喚起の用語に注意し、「危険」「警告」「注意」を考慮してください。すべての指示に従い、車椅子を安全に使用してください。注意喚起の用語は、あなたまたは他の人に重傷または死亡を引き起こす可能性のある危険または危険な行為を指します。次の3つの主要なカテゴリに分類されます。

**危険**- 回避しないと、重傷または死亡につながる差し迫った危険な状況を示します。

**警告**-回避しないと、重傷または死亡につながる可能性のある潜在的に危険な状況を示します。

**注意**-回避しないと、怪我や車椅子の損傷につながる可能性のある潜在的に危険な状況を示します。

これらの注意喚起の用語は、危険な状況を強調するために、必要に応じてマニュアル全体に配置されます。この車椅子の一般的な使用に適用される危険な状況については、次のリストを参照してください。

## IV. 警告

### B. 一般的な警告

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**Catalystの耐荷重を超えないようにしてください。これは、ユーザーの体重以外にも、持ち運ぶ荷物等も含めた合計重量です。耐荷重を超えると、車椅子の破損や転倒、転落の危険性が増し、使用者や他の人が重傷を負ったり死亡する可能性が高まります。

Catalyst 5:耐荷重136kg、高荷重オプションモデル159kg。

#### ⚠ DANGER ⚠

**危険:**ウェイトトレーニングには使用しないでください。付加的な重量の移動は車椅子の重心を変化させ、車椅子に損傷を与えたり、使用者や他の人に重度の怪我や死亡を引き起こすような転倒の可能性が高まります。

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**車椅子にエアータイヤが装備されている場合、タイヤのサイドウォールに示されている正しい空気圧まで空気が充填されていることを確認してください。車椅子の提供者は、エアータイヤであるかどうかを判断できます。タイヤを適切に膨らませずに車椅子を使用すると、車椅子の安定性に影響を与え、車椅子が転倒し、ユーザーまたは他の人が死亡または負傷する可能性があります。

#### ⚠ DANGER ⚠

**危険:**車椅子を傾斜路の上または下に押したり、9度を超える斜面を横切ったりしないでください。これは危険であり、転倒や転倒の可能性が高くなり、ユーザーまたは他の人に重傷や死亡をもたらす可能性があります。

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**滑りやすい場所、氷、油、または水で覆われている斜面に車椅子を押し上げないでください。これにより、不安定な状況が発生し、ユーザーまたは他の人が死亡または負傷することがあります。

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**車椅子の横や後ろに寄りかかって手を伸ばさないでください。これにより、車椅子から転倒したり、転倒してけがや死亡の原因となることがあります。

## IV. 警告

### B. 一般的な警告

#### ⚠ WARNING ⚠

**危険:**アームサポートやフットサポートなどの取り外し可能な部品を持って車椅子を持ち上げようとせず、フレームをつかんで車椅子を持ち上げるようにしてください。怠ると、転倒または制御不能が生じ、重傷または死亡に至る可能性があります。

#### ⚠ CAUTION ⚠

**注意:**さまざまなコンポーネントをフレームに固定するボルトや金具を締めすぎないでください。これは深刻な損傷を引き起こし、車椅子の安全性と耐久性に影響を与える可能性があります。

### C. ポジショニングベルト

ポジショニングベルトは、車椅子上で適切なポジショニングを支援するように設計されており、シートベルトとして設計されていません。ユーザーの姿勢をサポートする目的でのみポジショニングベルトを使用してください。

ポジショニングベルトの誤用は、ユーザーの重傷または死亡の原因となる場合があります。

- ユーザーが車椅子上でポジショニングベルトの下を滑らないようにしてください。この場合、ユーザーの呼吸が妨げられ、死亡または重傷を負う可能性があります。
- ポジショニングベルトは、姿勢を保持できる程度には締まっているが、呼吸を制限するほどきつくなり程度にぴったりとフィットしている必要があります。ポジショニングベルトとユーザーの間で手をスライドさせることができる程度です。
- 以下のような場合にはポジショニングベルトを使用しないこと。
  - a. 拘束具として。拘束には医師の指示が必要です。
  - b. 意識を失っているユーザー。
    - a. 自動車の乗員拘束装置として。ポジショニングベルトは、乗り物のフレームに取り付けられているシートベルトを置き換えるようにには設計されていません。急停止による力で、ユーザーは前方に投げ出されます。車椅子のシートベルトではこれを防ぐことはできず、ベルトやストラップでさらに怪我をする可能性があります。車載時について（V. 車椅子のセットアップと使用-セクションB）を参照してください。

#### ⚠ DANGER ⚠

**危険:**上記の指示に従わない場合、重傷または死亡の可能性があります。

## IV. 警告

### D. 乗車時

車椅子は、コンクリート、アスファルト、フローリングなど平らな地面で使用するように設計されています。濡れた路面や滑りやすい路面で車椅子を使用する場合は注意してください。

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**車椅子で砂、ゆるい土壌、または起伏の多い地形に入らないでください。これにより、安定性が失われ、転倒または制御不能となり、重傷または死亡の原因となります。

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**障害物や道路の危険（穴や壊れた舗装など）は、車椅子に損傷を与える、転倒、または制御不能になる可能性があります。この指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

#### ⚠ DANGER ⚠

**危険:**車椅子でエスカレーターに乗らないでください。エスカレーターで車椅子を使用すると、重傷を負ったり死亡する可能性があります。

これらのリスクを最小限に抑えるには：

- 1) 危険察知の為、乗車時は遠くを見るようにしてください。
- 2) あなたの生活の場や職場の床が平らで、障害物がないことを確認してください。
- 3) 部屋の間の敷居は取り除くか、覆ってください。
- 4) 出入口のドアにスロープを設置し、スロープの下部に落下物がないことを確認してください。
- 5) 重心位置を修正するには
  - a. 障害物を乗り越える時に上半身を少し前方に傾けます。
  - b. 坂道を下る際は、上半身を後方へ傾けます。
- 6) 転倒防止装置装着車の場合は、障害物を乗り越える前にそれらを所定の位置にロックします。
- 7) 障害物を乗り越えるときは、両手をハンドリムの上に置いてください。
- 8) 物（家具や玄関の枠など）を押したり引いたりして車椅子で移動しないでください。
- 9) 公道、高速道路で車椅子を操作しないでください。
- 10) 介助なしで障害物を乗り越えようとしないでください。

## IV. 警告

### E. 電動ユニット

Ki Mobilityは、Catalystに電動ユニットを取り付けることを推奨していません。

Catalystは、電動車椅子として設計やテストされていません。Catalystに電動ユニットを取り付ける場合は、電動ユニットの製造元が、ユニットとCatalystの組み合わせが安全かつ効果的であることを検証し、承認していることを確認してください。

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:** 適切に検証されていない電動ユニットを使用した場合、重傷または死亡につながる可能性があります。

### F. 上り階段

- ユーザーと車椅子の重量を支えるのに十分な力とスキルを備えた2人以上が、車椅子ごと階段を上るときに支援してください。
- 車椅子とユーザーが階段の下に移動します。
- ユーザーの前後に1人ずつ配置します。前側の人は車椅子の取り外しできない部分を掴まなければなりません。
- 背後の人気が車椅子を後ろに傾け、両方が一緒に持ち上げます。同時に一步を踏み出します。
- これには、転倒防止装置を跳ね上げるか取り外す必要がある場合があります。車椅子を使用する前に、転倒防止装置が再び取り付けられているか、裏返されていることを確認してください。

#### ⚠ DANGER ⚠

**危険:** 上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

### G. 下り階段

- 階段を下る際、ユーザーは階段の反対側を向きます。
- ユーザーと車椅子の重量を支えるのに十分な力とスキルを持っている人がユーザーの後ろから車椅子を後方に傾け、車椅子を後輪から1段ずつ階段から降ろします。
- これには、転倒防止装置を跳ね上げるか取り外す必要がある場合があります。車椅子を使用する前に、転倒防止装置が再び取り付けられているか、裏返されていることを確認してください。

#### ⚠ DANGER ⚠

**危険:** 上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

## IV. 警告

### H. 移乗

移乗には、良好なバランスと安定性が必要です。自分で移乗を試みる前に、セラピストからトレーニングを受ける必要があります。

- 車椅子からの移乗前に、移乗元と移乗先の隙間を減らすために細心の注意を払う必要があります。
- ブレーキを掛けて後輪をロックします。
- キャスターを前方に回転させ、車椅子のホイールベースを延ばします。
- フットサポートを取り外すか、スイングアウトさせます。
- 移乗の経験が豊富でない場合、誰かの援助が必要です。

一人で乗り移るのは危険です。バランスと俊敏性が必要です。車いすの座席があなたの下にない移乗には、全ての動作中に気を付ける点があることに注意してください。

### ⚠ WARNING ⚡

**警告:**上記の指示に従わない場合、転倒または制御不能になり、重傷または死亡に至る可能性があります。

### I. 車椅子と使用環境

- 車椅子は、金属や布など、さまざまな素材で作られています。水や過度の湿気にさらされると、車椅子の金属が錆びたり腐食したり、布が裂けたりする可能性があります。水にさらされた場合は、できるだけ早く車椅子を乾かしてください。
- シャワー、プール、または体が濡れた状態で車椅子を使用しないでください。これにより、車椅子が錆びたり腐食したりし、最終的に故障の原因になります。
- 車椅子を砂の上で操作しないでください。砂がホイールベアリングや可動部品に侵入する可能性があります。これにより損傷が生じ、最終的に故障の原因になります。
- 乗ろうとするランプ、スロープ、縁石の角度がADAガイドラインに準拠していることを確認してください。勾配が大きすぎる場合は、安定性が失われる可能性があります。

ADAガイドラインおよびアクセシビリティ設計に関する詳細情報は、以下で入手できます。

<http://www.ada.gov/>

### ⚠ WARNING ⚡

**警告:**上記の指示に従わない場合、転倒または制御不能になり、重傷または死亡に至る可能性があります。

## IV. 警告

### J. 車椅子の改造

車椅子は、厳格な設計管理の下で設計および製造されています。このプロセスの不可欠な部分は、さまざまなコンポーネントが正しく連携することを保証することです。それらは品質を保証するためにさまざまな基準でテストされており、連携することが認められています。

このマニュアルに従っての調整、Ki Mobility承認オプションの追加を除き、この車椅子を改造しないでください。フレームを掘削や切断することは認められません。Ki Mobilityが提供していないアクセサリーまたはコンポーネントを追加する場合は、事前に(株)ユーキ・トレーディングまたは販売店にお問い合わせください。

#### ▲ DANGER ▲

**危険:**これらの指示に従わない場合、車椅子が故障し、重傷または死亡に至る可能性があります。

### K. 車椅子の安定性

車椅子の適切な安定性を確保するには、重心と車椅子のベースがユーザーのバランスと能力に合っていることを確認する必要があります。これらの2つの要素には多くの要因が影響します。

- 座面の高さ
- 座奥行
- 背角度
- 後輪のサイズと位置
- フロントキャスターのサイズと位置
- シーティングシステムのコンポーネント

一般的に、最も重要な要素は後方安定性のための後輪の位置です。これらは逆に安定性に悪影響を与える可能性がある働きがあります。これがあなたの使用にどのように影響するかを決定する際には、車椅子提供者とあなたのニーズと能力に精通した臨床医と相談する必要があります。

#### ▲ WARNING ▲

**警告:**後輪を前方に調整すると、車椅子が後方に傾く可能性が高まります。車いすの新しいバランスポイントがわかるまで、少しずつ調整していきます。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

#### ▲ WARNING ▲

**警告:**フロントキャスターを後方に置くほど、車椅子が前方に傾く可能性が高まります。可能であれば、キャスターを前方に取り付け、体重を移動する静的な動作を行うときは常に、キャスターを前方に回転させてホイールベースを延ばします。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

#### ▲ WARNING ▲

**警告:**必ず、資格のある技術者に、毎日使用する予定の付属品で車椅子をセットアップしてもらいます。座り方の変更や体重の変更には、資格のある技術者による椅子の再調整が必要です。椅子のセットアップの変更に順応する間は、常に転倒防止装置を使用してください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

## IV. 警告

### K. 車椅子の安定性

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**毎日の活動中の重心の変化は1日に何度も発生し、車椅子の安定性に影響を及ぼします。これらの活動を認識し、転倒のリスクを最小限に抑えるための予防策を講じる必要があります。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**車椅子上で着替えると、動きにより瞬間的な重心の変化が生じ、安定性が低下する可能性があります。転倒防止装置を使用し、キャスターを前方に回転させます。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**物を取る際にシートから動く必要がある場合、重心の変化があるため最大限注意してください。転倒防止装置を使用します。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**傾斜を上る際は、重心が後方に移動し、安定性が低下する可能性があります。転倒防止装置を使用してください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**縁石や障害物を乗り越えようとする場合は、転倒防止装置を所定の位置に設定し、身体を前かがみにしてください。訓練を受けており、必要に応じて支援を提供するために常にあなたの後ろに付き添い人がいる場合を除き、ウイリーを試みないでください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**バックパックやブリーフケースなど、車椅子の背面または前面にアイテムを配置すると、車椅子のバランスと重心が変化します。これらのアイテムの重量は内容物で大きく変わるために、バランスポイントに慣れていると思いこまないでください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

車椅子に重いものを載せると、バランスに悪影響が出て、ひどい怪我や死亡につながる可能性があることにくれぐれも注意してください。

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**転倒防止装置が正しく取り付けられていることを確認してください。車椅子をどのように使用するか、どのような変更を計画しているかについては、臨床医と話し合ってください。本取扱説明書に従わないと、重大な人身事故を招く恐れがあります。

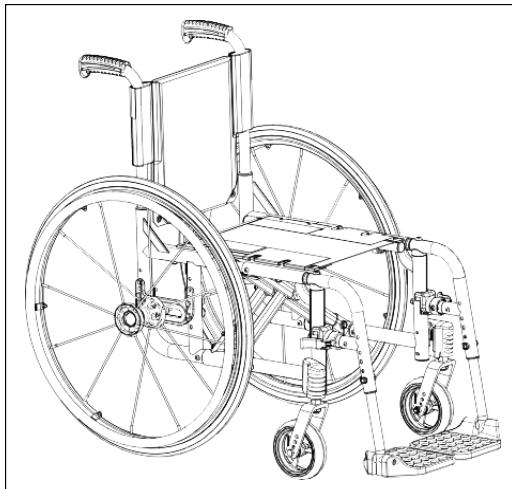
## V. 車椅子のセットアップと使用

### A. Catalystと付属部品

1. この車椅子の点検と整備は、46ページの「メンテナンス」を参照してください。
2. 問題を発見した場合は、車椅子の使用前に必ず調整・修理を実施してください。
3. 毎年、車椅子販売店より車椅子の完全な検査、安全確認、および点検を受けてください。

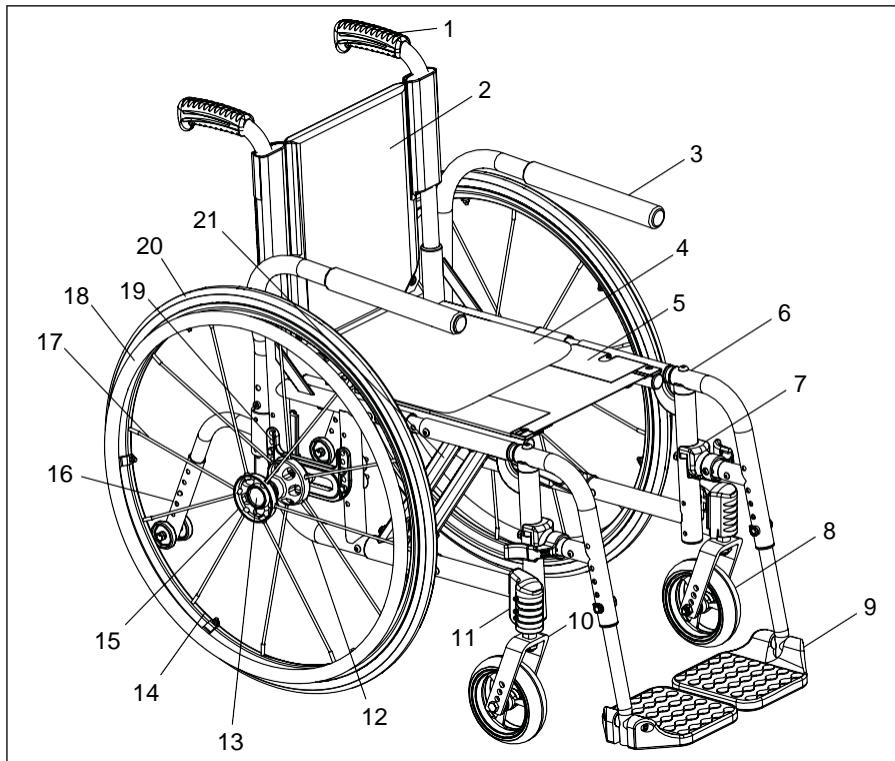
### ⚠ WARNING ⚠

**警告:** これらの指示を読まなかったり、守らなかった場合、車椅子の破損、転倒、制御不能等に陥り、ユーザーや他の人々に重大な傷害を与える可能性があります。



## V. 車椅子のセットアップと使用

### A. Catalystと付属部品



- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1. 押し手・バックパイプ     | 12. リアフレームコンポーネント |
| 2. バックレスト         | 13. クイックリリースアクスル  |
| 3. スイングアウトアームサポート | 14. アルミ製リムホイール    |
| 4. スリングシート        | 15. リアホイールハブ      |
| 5. 折り畳みストラップ      | 16. 転倒防止装置        |
| 6. スイングアウトフットサポート | 17. スポーク          |
| 7. スイングアウトラッチ     | 18. アルミ製ハンドリム     |
| 8. キャスター ホイール     | 19. アクスルプレート      |
| 9. 跳ね上げ式フットプレート   | 20. エアータイヤ        |
| 10. キャスター フォーク    | 21. クロスブレース       |
| 11. キャスター ハウジング   |                   |

# V. 車椅子のセットアップと使用

## B. 車載時について

適切なシートベルトとショルダーベルトを装着している自動車のシートに車いすから移るのが最も安全です。車載オプションが取り付けられていない限り、この車椅子を自動車の座席として使用しないでください。

車載オプションが取り付けられたCatalyst5は、RESNA WC-4:2012、セクション19:自動車の座席として使用される車椅子、およびISO 7176-19:2008車椅子 の試験に合格しています。RESNAおよびISO規格は、車椅子を自動車の座席として使用する際の構造的完全性を試験するために作られています。これらの規格は、WTORS(車椅子の固定及び乗員拘束システム)との互換性をもつようにも設計されています。

Catalyst5は、仕様によっては車載オプションを取り付けられない場合があります。Ki Mobilityはオーダーの内容を管理しており、車載オプションをオーダーされた場合においては車載オプションが取り付けられる仕様でなければCatalyst5を提供しません。既にお乗りのCatalyst5に車載オプションを取り付けたい場合、装着の可否をKi Mobilityもしくは販売店へご相談ください。

車載オプションの一部として設計され、テストされた元の機器の座面やバックサポートが、アフターマーケット製品に取り替えられているかもしれません。車椅子の提供者は、提供している製品が、オリジナルの製品か純正ではないアフターマーケットの製品かをあなたに伝える必要があります。車載オプションを装備したCatalyst5を自動車の座席として使用する前に、このセクションに記載されている全ての基準に準拠している車椅子フレーム・座席・車椅子固定装置および乗員拘束装置の完全なシステム・適切に装備された自動車を準備する必要があります。

車椅子を自動車の座席として使用する場合、必ず以下の指示に従ってください。

- 前向きに座ってください。
- 車椅子の搭乗者および積載品の総重量が、Catalyst5の耐荷重136 kgを超えないようにしてください。
- バックパックやポーチは、事故が発生した場合これらが危険な発射物になり、あなたや他の乗員を殺傷する可能性があります。取り外して自動車に固定してください。
- 車椅子使用者は、「RESNA WC-4:2012、セクション18:自動車で使用するための車椅子の固定と乗員拘束システム」または「ISO 10542-1:2012障害者や障害者のための技術的なシステムと補助—車椅子の固定と乗員拘束システム—第1部:すべてのシステムの要件とテスト方法」に準拠した車椅子の固定と乗員拘束システムを使用しなければならない。

# V. 車椅子のセットアップと使用

## B. 車載時について

- 車椅子固定メーカーの説明書およびRESNA WC-4に従い、車載オプション(図1)を使用して、Catalyst5の4か所の固定ポイント(前2ヶ所、後2ヶ所)に車椅子固定具を取り付けます。 : 2012、セクション18、またはISO 10542-1 : 2012 - パート1。
- 乗員固定装置の取付けは、メーカーの指示およびRESNA WC-4:2012, Section 18 もしくはISO 10542-1:2012, Part 1に従って実施してください。
- RESNA WC-4:2012, Section 18もしくはISO 10542-1:2012, Part 1に準拠していない限り、ラップベルト、チェストストラップ、ショルダーハーネスその他ポジショニング用アクセサリーを使用したり、乗員拘束装置として信頼しないでください。
- RESNA WC-4 : 2012のSection 18、またはISO 10542-1 : 2012のパート1、RESNA WC-4 : 2012、セクション20 : 自動車用の車椅子用座席システム、ISO 16840-4 : 2009車椅子用の座席 - パート4 : 自動車用に使用される座席システムに準拠していない限り、ヘッドサポート、ラテラルサポート、または他のポジショニング用アクセサリーを使用したり、乗員拘束装置として信頼したりしないでください。
- フィットさせて調整した後、元の装置の背面カバーの上端は、肩の上端から4インチ(10.16センチ)以内にある必要があります。
- 純正でないアフターマーケット製品は、RESNA WC-4:2012, Section 20 もしくは ISO 16840-4:2009 - Part 4準拠で試験を実施する必要があります。
- 車椅子フレームへのシーティングシステムの取付けは、シーティングシステムメーカーの指示およびRESNA WC-4:2012, Section 20 or ISO 16840-4:2009 - Part 4に従って実施してください。
- トレイ、酸素ボンベホルダー、酸素ボンベ、IVポール、バックパック、ポーチなど、Ki Mobility製ではないアフターマーケットアクセサリーは、事故が発生した場合これらが危険な発射物になり、あなたや他の乗員を殺傷する可能性があります。取り外して自動車に固定してください。
- 車椅子が事故に巻き込まれた場合、目に見えない疲労や損傷があるかもしれません。使い続けるべきではありません。

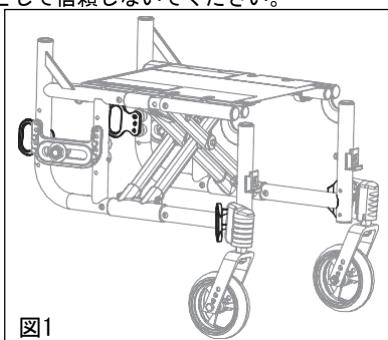


図1

## V. 車椅子のセットアップと使用

### B. 車載時について

#### **⚠ DANGER ⚠**

**危険:**14ページおよび15ページ指示に従わない場合、重傷を負ったり死亡する可能性があります。

- この車椅子を自動車での座席として使用する場合は、酸素ボンベを取り外し、別途、しっかりと固定してください。

#### **⚠ DANGER ⚠**

**危険:**酸素ボンベを取り外してしっかりと固定せず自動車の座席として使用した場合、重傷または死に至る恐れがあります。

#### RESNA

1700 North Moore St., Suite 1540

Arlington, VA 22209

Phone: 703-524-6686

Fax: 703-524-6630

Email: [technicalstandards@resna.org](mailto:technicalstandards@resna.org)

#### ANSI/RESNA Standards:

RESNA WC-4:2012, Section 18:

Wheelchair tie-down and occupant restraint systems for use in motor vehicles.

RESNA WC-4:2012, Section 19:

Wheelchairs used as seats in motor vehicles.

RESNA WC-4:2012, Section 20:

Wheelchair seating systems for use in motor vehicles.

#### International Organization for Standardization (ISO)

BIBC II

Chemin de Blandonnet 8

CP 401

1214 Vernier, Geneva

Switzerland

Phone: +41 22 749 01 11

Fax: +41 22 733 34 30

Email: [central@iso.org](mailto:central@iso.org)

#### ISO Standards:

ISO 10542-1:2012 Technical systems and aids for disabled or handicapped person --

Wheelchair tie-down and occupant-restraint systems -- Part 1:

Requirements and test methods for all systems.

ISO 16840-4:2009 Wheelchair seating -- Part 4:

Seating systems for use in motor vehicles.

ISO 7176-19:2008 Wheelchairs -- Part 19:

Wheeled mobility devices for use as seats in motor vehicles.

## V. 車椅子のセットアップと使用

### C. 高さ調整式 T型アームサポート

#### 1. 取り付け

- 車椅子のフレームに取り付けられたアームサポートレシーバーにアームポストを差し込みます。
- アームサポートは所定の高さでロックされます。ロックレバーが下図のようになっていることを確認してください。(図 2-B)

#### 2. 高さ調整

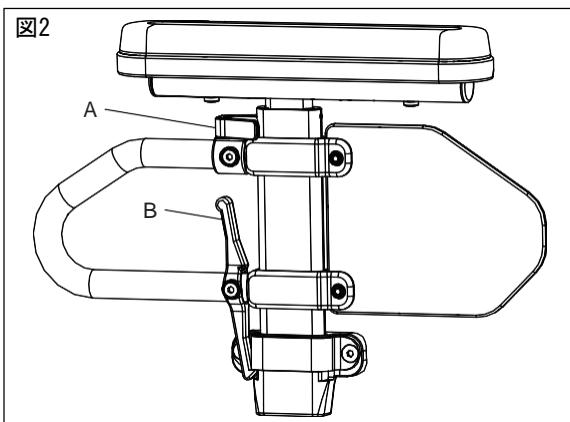
- リリースレバーを起こします。(図2-A)
- アームパッドを任意の高さにスライドさせます。
- リリースレバーをロック位置に戻します。
- 上部アームポストが所定の位置にしっかりと固定されるまで、アームパッドを押します。ロックレバーが図のようになっていることを確認してください。(図 2-A)

#### 3. 取り外し

- リリースレバー(図2-B)を握り、アームレストを引き抜き取り外します。

#### 4. アームサポートの交換

- アームサポートをスライドさせてレシーバーに戻します。
- アームサポートは元の位置に固定されます。



## ⚠ DANGER ⚠

**危険:**上記の指示に従わなかった場合、アームサポートが誤って車椅子から外れ転倒や制御不能になり、重傷または死に至る可能性があります。

## ⚠ DANGER ⚠

**危険:**アームサポートを利用して車椅子を持ち上げようとしないでください。アームサポートの破損、破断から転倒や制御の喪失を招き、重傷または死に至る恐れがあります。

## V. 車椅子のセットアップと使用

### D. スイングアウト式アームサポート

1. 取り付け(図3)
2. フレームの背面に取り付けられているレシーバーのチューブにアームサポートを差し込みさせます。
3. スイングアウト
  - a. アームサポートを少し持ち上げ、回転させます。
4. 取り外し
  - a. アームサポートを真上に引き抜きます。



#### ⚠ DANGER ⚠

**危険:**このアームサポートは回転に対してのみロックを提供し、下向きの力のみを支える設計です。上に持ち上げると完全に抜けてしまうため、車椅子を持ち上げるなどの用途には使用できません。上記の指示に従わないと、アームサポートが誤って車椅子から外れ、転倒や制御不能に陥り、重傷や死亡の原因となります。

## V. 車椅子のセットアップと使用

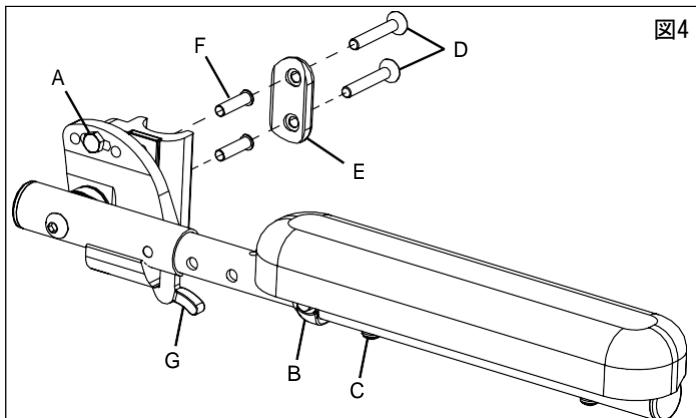
### E. 角度・長さ段階調整式フリップアップアームサポート

#### 調整

1. 使用者の好みに基づいて、アームサポートの角度を設定します。角度を設定するために使用できる穴は5つあります(図4:A)。角度を設定したらボルトを締めます。
2. 使用者の好みに基づいて、アームサポートの長さを調整します。長さを調整するには、チューブのボルトとスペーサー(図4:B)、車椅子の後ろに最も近いネジ(図4:C)を外します。希望の長さにアームサポートをスライドさせたら、ネジとボルトを再度取り付けます。
3. 使用者の好みに基づいて、アームサポートの高さを調整します。アームサポートには4か所の穴があり、バックパイプの穴に対して2通りの高さの設定が可能です。使用者に適した高さの設定ができる穴を使用してください。2本のボルト(図4:D)はスペーサー(図4:E)、スリーブ(図4:F)、バックパイプを通り、アームサポートに入っています。

#### 使い方

1. リリースレバー(図4:G)を押し、アームサポートを跳ね上げます。跳ね上げたアームサポートを戻すには、カチッと音がするまで押し下げてください。



#### ⚠ DANGER ⚠

**危険:**体位変換のために使用する前に、必ずアームサポートが所定の位置に固定されていることを確認してください。怠った場合、転倒やコントロールの喪失を招き、重傷または死に至る危険性があります。

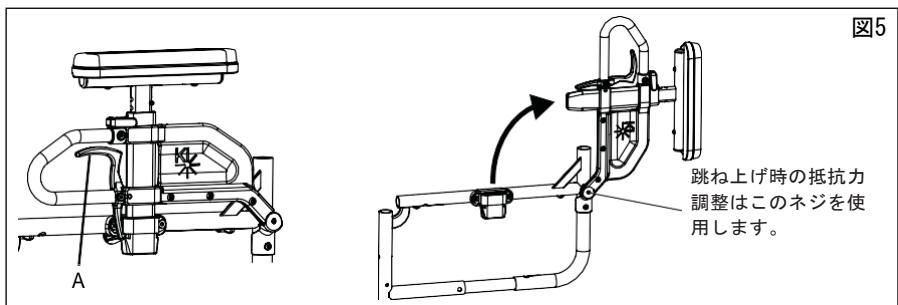
#### ⚠ DANGER ⚠

**危険:**絶対にアームサポートを用いて車椅子を持ち上げないでください。アームサポートが外れ、事故が発生する可能性があります。

## V. 車椅子のセットアップと使用

### F. 高さ調整式 フリップバックT型アームサポート

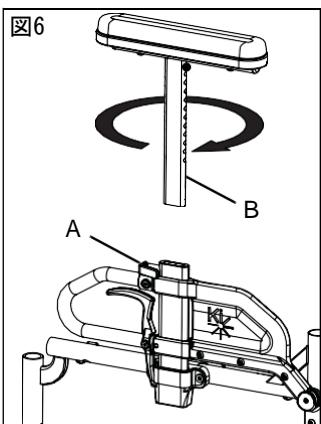
- アームサポートを跳ね上げるには、リリースレバー(図5:A)を引き上げ、アームサポートアセンブリを斜め後ろに持ち上げます。
- アームサポートを元の位置に戻すには、リリースレバーが元の位置にロックされるまでアームサポートアセンブリを下げます。



アームサポート前端の長さを変更するには

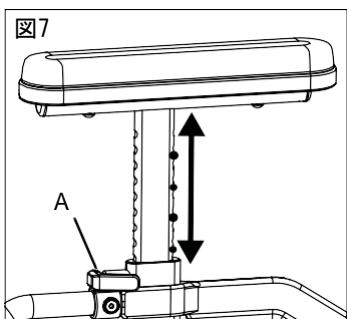
- 高さ調整レバー(図6:A)を引き起こし、上部T型アームアセンブリ(図6:B)をポストから引き抜きます。
- 上部T型アームアセンブリを回転させ、ポストに取り付け直します。
- 高さ調節レバー(図6:A)を閉じて固定します。

注:アームサポートパッドは、チューブの横方向・縦方向の中央に配置されていません。これにより、向きを変えることで車椅子の前側で長くまたは短くと、2通りの長さを提供します。アームサポートパッドにも2種類のオプションがあります。アームサポートパッドの長い方の端が椅子の前の端にある場合、パッドは車椅子の外側に垂れ下がるように覆われており、アームサポートパッドの短端が椅子の前側にあるとき、パッドは車椅子の内側に垂れ下がるように覆われています。また、アームサポートを左右反対側に切り替えることで、フロントエンドのパッド長とサイドパッド長をより自由に設定できます。



アームサポートの高さを変更するには

- 高さ調整レバー(図7:A)を引き起こし、上部T型アームアセンブリを希望の高さまでスライドさせます。
- 高さ調節レバー(図7:A)を閉じて固定します。



## V. 車椅子のセットアップと使用

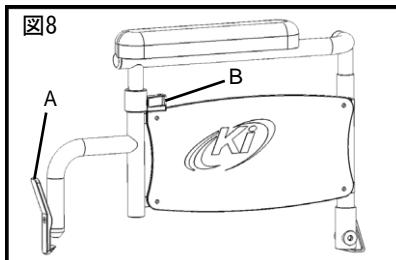
### G. フリップバック/高さ調整式フリップバックアームサポート

#### 1. 跳ね上げ

前端の固定レバー(図8:A)を押しながら、アームサポートを跳ね上げます。アームサポート後ろ側の軸を中心に回転します。

#### 2. 高さ調整

- リリースレバー(図8:B)を回します。
- アームサポートパッドを目的の高さままで上下にスライドさせます。
- レバーをロック位置に戻します。
- アームパッドがしっかりとロックされる位置まで押し下げます。アームサポートは元の位置に固定されます。



#### ⚠ DANGER ⚠

**危険:**アームサポートを使用する前に、アームサポートが所定の位置にロックされていることを必ず確認してください。さもないと、制御不能に陥り、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

#### ⚠ DANGER ⚠

**危険:**アームサポートで車椅子を持ち上げようとしてください。折れたり外れたりし、転倒したり、制御不能に陥り、重傷を負ったり、死亡するおそれがあります。

### H. アームサポートの警告

- Ki Mobilityのすべてのアームサポートは、車椅子から取り外せるように設計されており、この車椅子の重さには耐えられません。
- この車椅子は絶対にアームサポートで持ち上げないでください。アームサポートが外れ、使用者が転倒するおそれがあります。
- この車椅子を持ち上げる際は、メインフレームの取り外しできない部分を使用してください。

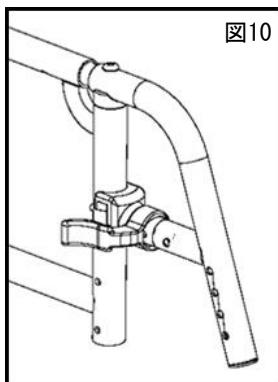
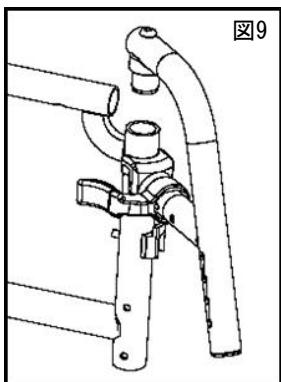
#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**これらの指示に従わないと、転倒、転倒、制御不能などの原因となり、ユーザーやその他の人に重大な損害を与える可能性があります。

# V. 車椅子のセットアップと使用

## I. ハンガー

1. 取り付け
  - a. フットサポートがフレームの内側もしくは外側を向くようにし、スイングアウトハンガーのピボットサドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込みます(図9)。
  - b. フットサポートを、ラッチブロックの所定の位置に固定されるまで回転させます(図10)。
2. スイングアウト
  - a. リリースラッチをフレーム方向へ押します。
  - b. フットサポートを必要に応じて外側や内側に回転させます。
3. 取り外し
  - a. リリースラッチをフレーム方向へ押します。
  - b. フットサポートを内側や外側へスイングさせ、真上に持ち上げて取り外します。



### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**ハンガーや車椅子の使用前には、必ずハンガーが所定の位置に固定されていることを確認してください。怠った場合、転倒やコントロールの喪失を招き、重傷または死に至る危険性があります。

### ⚠ DANGER ⚠

**危険:**ハンガーを用いて車椅子を持ち上げようとしてください。破損や破断が発生し転倒やコントロールの喪失を招き、重傷または死に至る危険性があります。

## V. 車椅子のセットアップと使用

### J. 4-Wayタイプラッチ付スイングアウェイハンガー

#### 1. 取り付け

- スイング式サドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込みます(図11:A)。
- フットサポートを、ラッチブロックの所定の位置に固定されるまで回転させます(図11:B)。

#### 2. スイングアウェイ

- リリースラッチを押す、または引きます。
- フットサポートを必要に応じて内側や外側に回転させます。

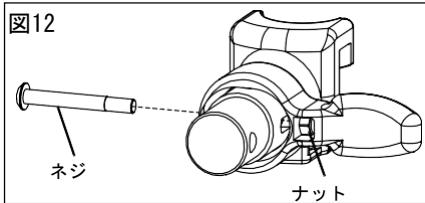
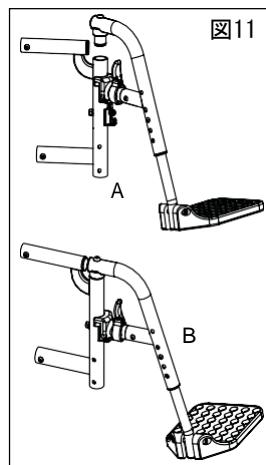
#### 3. 取り外し

- リリースラッチをフレーム方向へ押します。
- フットサポートを内側や外側へスイングさせ、真上に持ち上げて取り外します。

#### 4. 回転(図12)

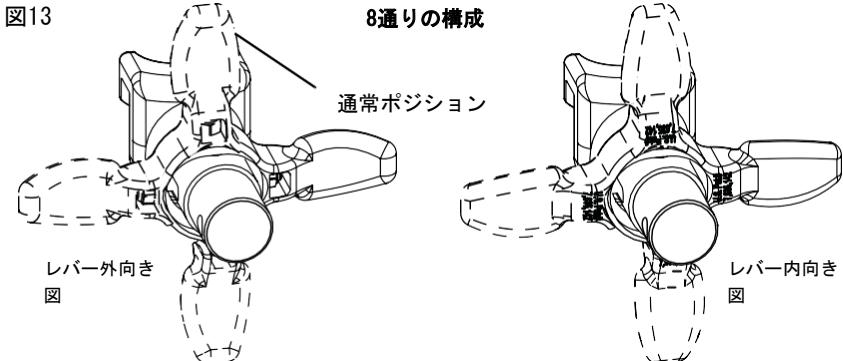
4-Wayタイプラッチには8通りの構成があります。4つはレバーのカーブが外側を向き、4つはレバーのカーブが内側を向いています。可能な構成については図13を参照してください。

- 4-Wayタイプラッチを回転させるには、ハンガーが車椅子に取り付けられた状態で3mm六角レンチを使用してねじを取り外します(ねじを取り外して再び挿入し、ハンガーを椅子に固定するとなればねは固定されます)。ナットが落ちないことを確認してください。
- 4-Wayタイプラッチを任意の向きに回転させ、3mm六角レンチでねじを取り付けます。ねじを締めている間、ナットが正しい位置にあることを確認してください。この時、ねじを締めすぎないようにしてください。



注: 4-Wayタイプラッチを逆向きに取り付けるには、同じねじを外し、ハンガーからラッチブロックを取り外す必要があります。ラッチをスライドさせて裏返し、再度取り付けます。ラッチボタンを押したままにして、バネが噛み合っていることを確認します。ねじを取り付ける間、ナットは所定の位置に留まります。

注: エレベーティングフットサポート(Pro-ELR)ではインライン方向へ設定できません。



## V. 車椅子のセットアップと使用

### K. 延長チューブ

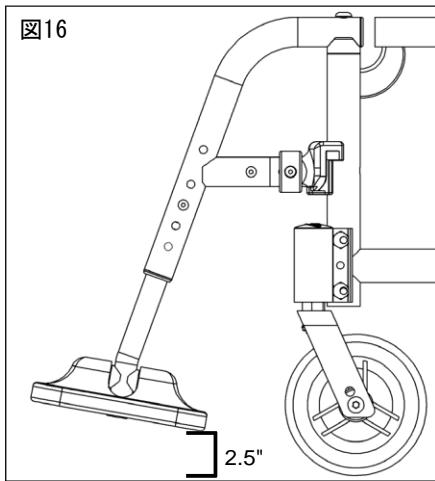
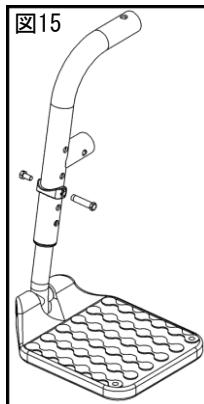
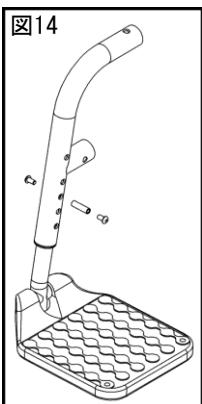
#### 1. 調整

- a. ハンガーチューブの両側から留め具を外します。
- b. フットサポート延長チューブを任意の高さまでスライドさせます。
- c. 穴の位置を揃え、ハンガーと延長チューブを介して必要な穴に留め具を組み付けます。
- d. 反対側も同様の手順で実施してください（図14・図15）。

フットサポートの下端は、地面から最低でも2.5インチ(6.35cm)離して設定してください。低すぎる場合、通常の使用時に予想される障害物に当たるなどして車椅子が急停止し、前方へ倒れる恐れがあります（図16）。

移乗時のつまずきや転倒を避けるために

- a. フットサポートの間のスペースに足が引っかからないようにしてください。
- b. 車椅子が前方に傾く恐れがあるため、フットサポートに体重をかけないでください。



# V. 車椅子のセットアップと使用

## L. エレベーティングフットサポート

### 1. 取り付け

- フットサポートをフレームの内側または外側に向けて、旋回式サドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込みます。22ページの図9・図10と同様です。
- フットサポートを、ラッチブロックの所定の位置に固定されるまで回転させます。

### 2. 取り外し

- リリースラッチをフレーム方向へ押します。
- 外側へ回転させ持ち上げます。

### 3. 延長チューブの調整

- ねじ切りされている取り付けボルトを取り外し、パッドブラケットの中央にあるレットグレストチューブに差し込みます（図17 : C）。場合によっては、このボルトがピボットブラケットの下のチューブに挿入される場合があります。
- フットサポート延長チューブを任意の高さに調整します。
- 穴の位置を揃え、フットサポートチューブと延長チューブにボルトを取り付けます。
- 反対側も同様に実施します。

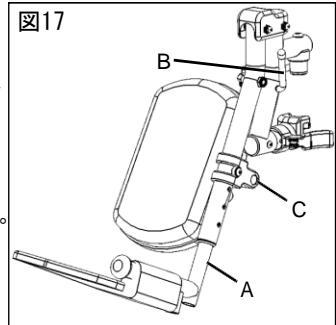
### 4. エレベーティング角度調整

- 上げる場合、延長チューブの後部を持ち上げます（図17:A）。ロッドはラチェットを通してこの方向にスライドします。任意の高さで止めます。
- 下ろす場合、延長チューブの後部から脚をしっかりと支えます（図17:B）。続いてレバーを手前に引き（図17:B）、そのままフットサポートを持ち上げます。レバーを離すと、フットサポートが任意の高さで固定されます。

移乗時のつまずきや転倒を避けるために

- フットサポート間の隙間に足が引っかからないようしてください。
- 車椅子が前方に傾く恐れがあるため、フットサポートに体重をかけないでください。

図17



## ⚠ WARNING ⚠

**警告:** フットサポートの下端は、地面から最低でも2.5インチ(6.35cm)離して設定してください。低すぎる場合、通常の使用時に遭遇すると思われる障害物に当たるなどして車椅子が急停止し、転倒やコントロールの喪失を招き、重傷または死に至る危険性があります。

## ⚠ DANGER ⚠

**危険:** ハンガーを用いて車椅子を持ち上げようとしないでください。破損や破断が発生し転倒やコントロールの喪失を招き、重傷または死に至る危険性があります。

# V. 車椅子のセットアップと使用

## M. Proエレベーティングフットサポート(Pro-ELR)

### 取り付け

注:Pro-ELRは、スイングアウェイハンガーと同じ方法で車椅子に取り付けられます。

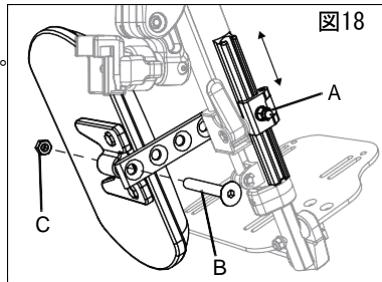
1. フットサポートをフレームの内側もしくは外側に向けて、旋回式サドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込みます。
2. フットサポートを、ラッチブロックの所定の位置に固定されるまで回転させます。

### ふくらはぎパッドの高さ調整

1. 10mmのレンチを使用しナット(図18:A)を緩めます。
2. ふくらはぎパッドのアームを任意の高さまで上下にスライドさせ、ナットを締めます。

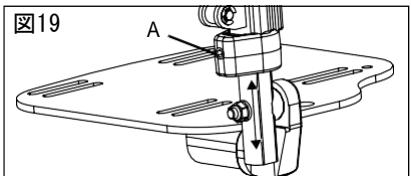
### ふくらはぎパッドの奥行調整

1. 5mmの六角レンチと13mmレンチを使用し、ふくらはぎパッドアームのネジ(図18:B)とナット(図18:C)を取り外します。
2. 4つの穴から任意の位置を選択し、ネジとナットを取り付けます。



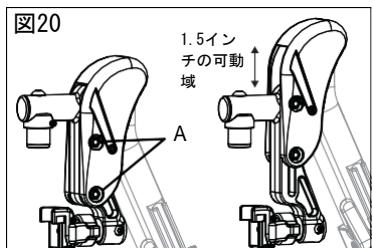
### フットサポートの高さ調整

1. 4mmの六角レンチで固定用ネジ(図19:A)を緩めます。
2. 延長チューブをスライドさせて任意の高さにし、固定用ネジを締めて固定します。



### 膝の高さ調整

1. 10mmのソケットレンチを2本使用し、カバーの2ヶ所のナット(図20:A)を緩めます。
2. 膝の高さを任意の設定に調整します。
3. 調整後、2ヶ所のナットを締めます(図20:A)。



### エレベーティング角度調整

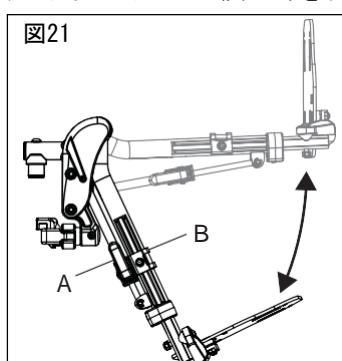
1. 上げる場合、フットサポートチューブ(図21:A)を希望の角度まで持ち上げます。
2. 下げる場合、レバーロック(図21:B)を押したままでフットサポートチューブ(図21:A)を下ろします。

注:レバーロックを押した際に急に下がらないよう、下げる際はPro-ELRを予め車椅子から外すか、支えながら下してください。

注:ふくらはぎパッドは、移乗時に邪魔にならないよう外側にスイングできます。

### 取り外し

1. リリースラッチを押す、もしくは引きます。
2. 取り外す前にフットサポートを内側や外側へスイングさせ、真上に持ち上げて取り外します。



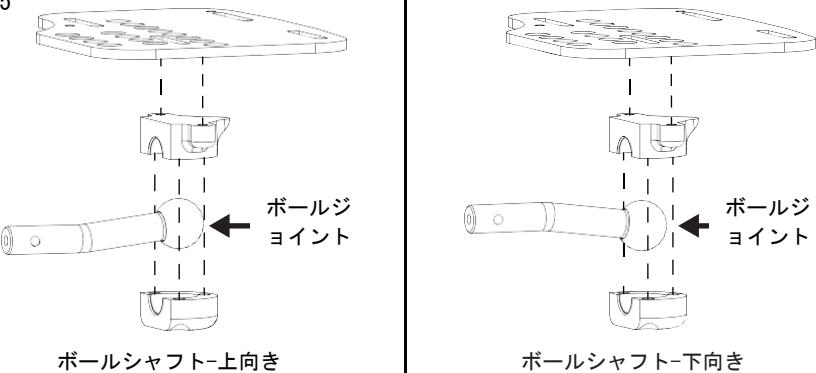
## V. 車椅子のセットアップと使用

### N. マルチアングル調整式アルミフットプレート

#### 1. 角度変更(図:25)

マルチアングルフットプレートはボールジョイントを採用しているため、様々な角度に設定できます。

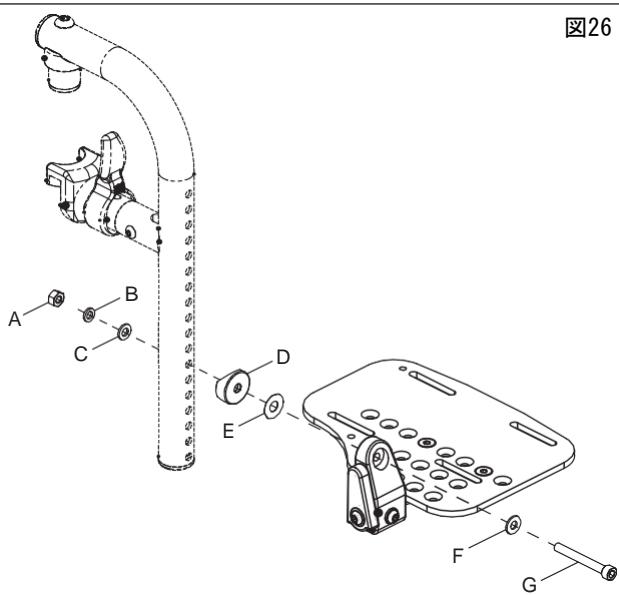
図25



#### 2. 高さ変更

- 5mm六角レンチと10mmレンチを使用し、ナット(図26:A)、ワッシャー×2(図26:B)(図26:C)、サドルスペーサー(図26:D)、ワッシャー×2(図26:E)(図26:F)、ネジ(図26:G)を外してフットプレートアセンブリを取り外します。
- フットプレートアセンブリを任意の高さに合わせ、最も近い穴にaで取り外したネジ等を元通りに組み付けます。

図26

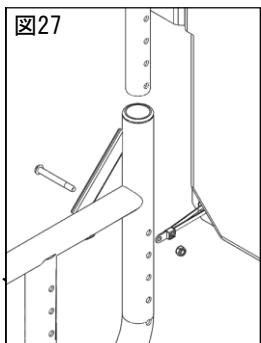


# V. 車椅子のセットアップと使用

## O. 高さ調整式バックサポート

### 1. 高さ調整(図27)

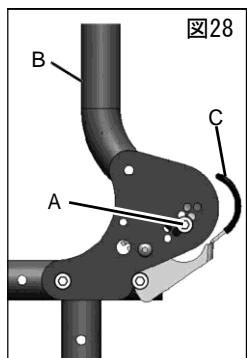
- リアサイドフレームには1インチ間隔に穴があり、バックパイプを固定しています。
- 各リアサイドフレームから2本のボルトを取り外します。
- 希望の高さを選択したら、フレームとバックパイプにボルトを通します。
- 背シートの底にはタブとジップタイがあります。フレームボルトをジップタイに通すか、スペースが足りない場合は、背面カバーに付属の予備のボルトを使用します。
- 余分なジップタイを締めて取り外します。



## P. 座奥行調整式バックサポート

### 1. 角度調整

- バックサポートの角度を調整するには、バックプレートとバックパイプを通る両側のM 6ボルトとナット(図28:A)を取り外します。
- 目的の角度にバックパイプ(図28:B)を傾けます。
- 2本のM6ボルトをバックプレートとバックパイプの穴に挿入し直します。
- 反対側も同様に実施します。

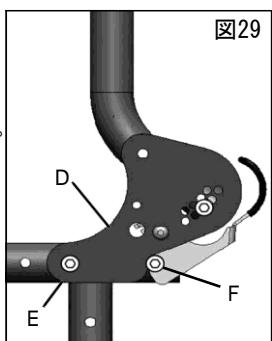


### 2. 折りたたみ

- レバー(図28:C)を椅子の正面に向けて押すと、バックパイプが、前方に折り畳まれます。反対側も同様です。

### 3. 奥行調整

- Catalyst 5またはSparkの奥行きを変更するには、(図29:E)のバックプレート両側のボルトとナットを取り外します。
- ボルトとナットをレバーの両側から取り外します(図29:F)。すると、バックサポート一式(図29:D)をサイドフレームの利用可能な穴に再配置することができます。
- 位置を調整したら、再度プレートの穴(図29:E)とレバー(図29:F)を介してボルトとナットを取り付けます。



## V. 車椅子のセットアップと使用

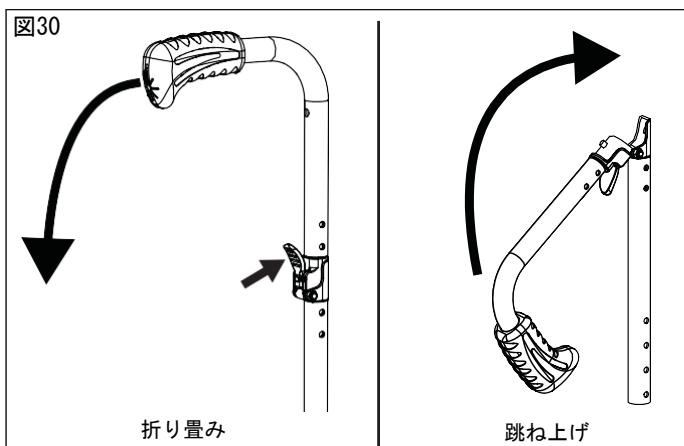
### Q. Catalyst 背折れ式バックサポート

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**あなたがもっとも頻繁に使用する付属品の仕様で技術者に車椅子をセットアップしてもらってください。座り方の変更や体重の変更には、技術者が車椅子を調整し直す必要があります。車椅子の置き方に変化がある場合は、必ず転倒防止装置を使用してください。この指示に従わない場合、重傷または死亡の可能性があります。

使い方 (図30)

1. リリースレバーを車椅子前方に向けて押しながら、バックパイプを倒します。
2. 車椅子を使用する際はカチッとロックされる位置まで戻します。



#### ⚠ DANGER ⚠

**危険:**バックパイプに物を置いたり、ぶら下げたりしないでください。折り畳みレバーに物が当たるなどして誤って折り畳まれ、転倒や制御不能に陥り、重傷や死亡の原因となります。

#### ⚠ DANGER ⚠

**危険:**バックパイプが使用位置にない場合は使用しないでください。転倒して重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

高さ調整

この取扱説明書の「高さ調節式バックサポート」の項を参照してください。

# V. 車椅子のセットアップと使用

## R. Catalyst リクライニング式バックサポート

### ▲ WARNING ▲

**警告:**背もたれの高さ・角度、座奥行、リクライニング角度、座面の高さ、後輪のサイズ・位置、フロントキャスターのサイズ・位置、および付属品、バックパック、酸素ボンベなどの車椅子後部の重量はすべて車椅子の安定性に関連し、影響を与えます。上記の項目を1つでも調整または変更すると、車椅子の安定性が低下する可能性があります。上記の項目を変更するときは注意してください。背もたれの高さ・角度、座奥行、座面の高さ、後輪のサイズ・位置、フロントキャスターのサイズ・位置を調整する場合は、資格のある技術者に相談してください。不適切な調整は、使用者などに重大な傷害を与える可能性があります。

#### リクライニング式バックサポート操作上の注意

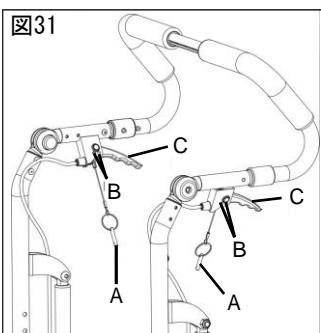
1. システムへの調整を行った後、すべての取り付けハードウェアがしっかりと締まっていることを確認してください。
2. 車椅子が最大にリクライニングした状態で常に安定していることを確認してください。背もたれの角度に応じて、リクライニング角度の最大は65度であり、完全な直立位置を基準にしています。完全な直立位置は0°です。
3. 利用者の安全のため、リクライニングを使用する際は必ずブレーキをかけてください。
4. 使用中に車椅子が不安定にならないよう、リクライニング式バックサポートの使用前に転倒防止装置が適切に調整されていることを確認してください。詳しくは、本書41ページ転倒防止装置をご覧ください。

### ▲ DANGER ▲

**危険:**チルトやリクライニング機能を使用すると、椅子から落下する危険性が高くなり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

#### リクライニング機能の使用

1. リクライニング機能の使用前に、左右リクライニングレバーのロックピンホールからロックピンを取り外し、システムのロックを解除します(図31:A)。
2. 車椅子を平らな場所に置き、ブレーキをかけます。
3. ハンドルをしっかりと握り、両方のリクライニングレバー(図31:C)をゆっくりと同時に握り、ガスシリンダーを解放します。これにより、次のように背もたれの角度を調整できます。
  - a. 後傾—ガススプリングに下向きの力を加えることで、バックサポートの角度を開くことができます。
  - b. 前傾—バックサポートに上向きの力を加え、角度を戻します。
4. バックサポートを任意のリクライニング角度に調整したら、左右のリクライニングレバーをゆっくりと放します。
5. システムをロックするには、ロックピンをロックピンホールに挿入します(図31:A)。利用者のポジショニングが完了したら、左右のリクライニングレバーを常にロックしておくことをお勧めします。



## V. 車椅子のセットアップと使用

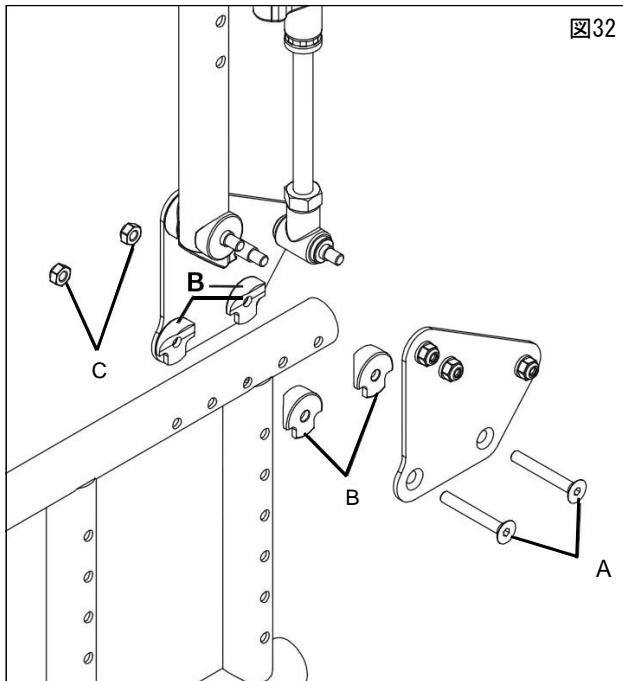
### R. Catalyst リクライニング式バックサポート

リクライニング式バックサポートの位置調整

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**この調整は人が乗っていない状態で実施してください。重大な怪我や死亡の原因になります。

1. フレームの取り付け位置によって、リクライニング式バックサポートをリアフレームに沿って1インチ(2.54cm)短くするか、2インチ(5.08cm)短くするか、2インチ(5.08cm)長くするかを調節できます。
2. 4mm六角レンチと10mmレンチを使用し、平頭小ねじ(図32:A)、ハーフサドル(図32:B)、およびM6ナイロックナット(図32:C)を取り外します。
3. アセンブリをリアフレームに沿って任意の位置に移動します。
4. プレートとリアサイドフレーム(図32:B)の間のサドルを取り付け、平頭押さえねじ(図32:A)を再度挿入し、M6ナイロックヘックスナット(図32:C)でしっかりと固定されるまで締めます。
5. 反対側も同様に実施します。



# V. 車椅子のセットアップと使用

## S. ホイールの取り付け・取り外し (一部モデルではオプション)

### 1. ホイールの取り付け

- 車軸のクイックリリースボタンを押して、ロックボールを格納します。クイックリリースボタンを押したときと戻したときの位置の違いと、車軸の反対側のロックボールへの影響に注意してください(図33)。
- 車軸が分離している場合は、車軸をホイールベアリングの穴に挿入します。
- 再度クイックリリースボタンを押し、車軸をアクスルスリーブに挿入します(図33)。
- ボタンを放し、車軸をスリーブにロックします。リリースボタンが完全に伸びず、ボタンを離した後にロッキングボールがロック位置に移動しない場合、軸の長さを調整する必要があります(図34)。

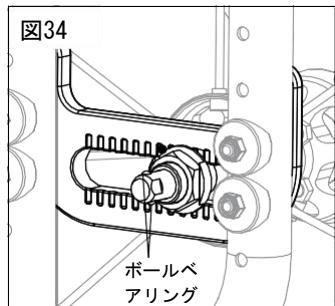
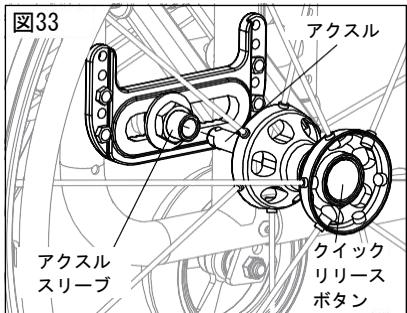
### 2. 車軸調整

- 車軸調整には、外側のアクスルナットを回すための19mmレンチが必要です。
- また、車軸の反対側の端のボールベアリングを保持し、車軸の回転を防ぐために11mmレンチが必要です。
- ホイールを取り付けた際に車軸がロックされない場合は、ロック可能になるまでアクスルナットを緩め、ロックすると車軸にわずかなガタが発生するようにします。そこまで調整ができた場合は、次の手順に進みます。
- アクスルナットをきつくなるまで反時計回りに回し、アクスルナットを時計回りに一度に1/3回転させます。1/3回転させるたびに適切に調整されているかどうかを確認してください。適切に調整すると、スリーブ内での車軸の知覚可能な動きはありませんが、クイックリリースボタンはスムーズに押し込むことができます。

車軸調整を試す前にこのT章「ホイールの取り付け・取り外し」をよく理解してください。

### 3. ホイールの取り外し

- ホイールをハブの近くで保持し、車軸外側のクイックリリースボタンを押します。
- ボタンを押したまま、ホイールをアクスルスリーブから引き抜きます。



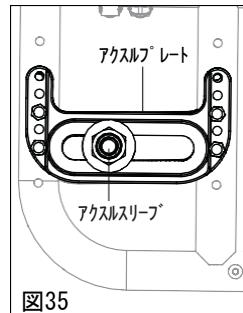
**危険: 車椅子を操作する前に、プッシュボタンが完全に戻り、車椅子の内側のロックボールが完全にかみ合っていることを確認してください。さもないと、ホイールの脱落を招き、重傷または死に至る可能性があります。**

## **DANGER**

## V. 車椅子のセットアップと使用

### 1. 重心(図35)

アクスルスリーブをアクスルプレート内で動かすと、キャスターと後輪の重量配分が変わります。前方に移動すると、より多くの荷重が後輪にかかります。これにより、フロントキャスターの荷重が軽減され、車椅子の操作が容易になります。また、車いすのステップルが少なくなり、キャスター上げがしやすくなります。逆に、車軸が後方に移動すると、車椅子はより安定する。この調整を検討する際には、車椅子販売店と協力することを推奨します。



### ▲ WARNING ▲

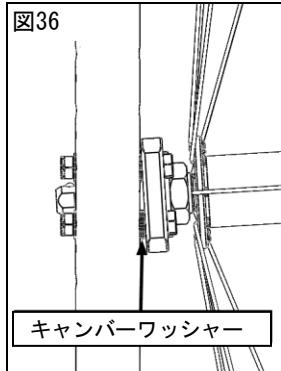
**警告:**車軸の配置を調整した後で車椅子を試すときは、絶対に転倒防止装置を使用してください。転倒、制御不能の状態に陥り、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

### ▲ DANGER ▲

**危険:**アクスルプレートを前方に動かしすぎると、椅子が後方に倒れたり、制御不能に陥ったりして、重傷を負ったり死亡したりするおそれがあります

### 2. キャンバー角(図36)

キャンバー角をつけると、左右のタイヤの間隔が広がるため、車椅子の横方向の安定性が向上します。また、旋回がしやすくなり、ハンドリムへのアクセスが改善されます。キャンバー角は、注文時に選択できます。もともと設定されているキャンバー角から変更することができます。キャンバー角を調整するには、アクスルプレートのボルトを取り外します。さらにキャンバー角が必要な場合は、1度ごとに1枚、ワッシャーを追加します。ただし、ボルトに6枚以上のワッシャーを使用しないでください。キャンバー角を減らしたい場合は、角度ごとにワッシャーを1枚ずつ取り外します。必要な数のワッシャーを配置したらアクスルプレートとボルトを取り付け直します。車椅子の反対側にあるアクスルプレートも同様に実施します。



## V. 車椅子のセットアップと使用

### 3. トレッド(左右ホイールの距離)の調整(図37)

車軸を保持するスリーブは、調整可能です。このスリーブを調節することにより、ホイールをアクスルプレートに近づけたり遠ざけたりすることができ、これにより車椅子全体の幅が増減します。

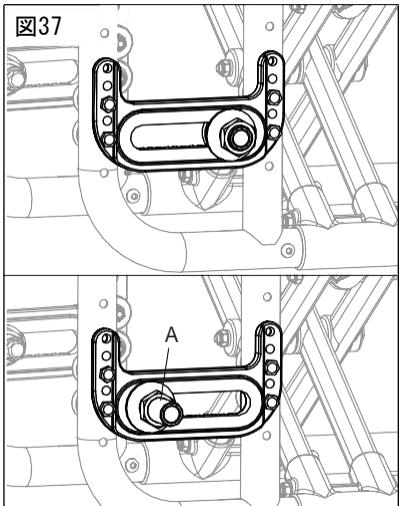
全体の幅を広くすると、左右の安定性は向上しますが、ドアを通るのが難しくなります。狭くすると、利便性が向上する場合があります。全体の幅を狭くする際は、車輪がアームサポートや車椅子の他の部分に干渉しないようにしてください。

- ナットを緩め、アクスルスリーブを必要に応じて回転させます(図37:A)。見えているネジ山の数をカウントし、反対側も同様に実施します。
- ナットを締め直します。

### 4. 後座高の調整

後座高は、フレームに開けられた取付穴の範囲内でアクスルプレートを垂直に動かすことにより調節することができます。これより、後座高を4インチ(10.16cm)の範囲で調整できます。

**注:**フロントキャスターは、後座高に合わせて調整する必要があります。セクションBB 「キャスターフォーク」を参照してください。

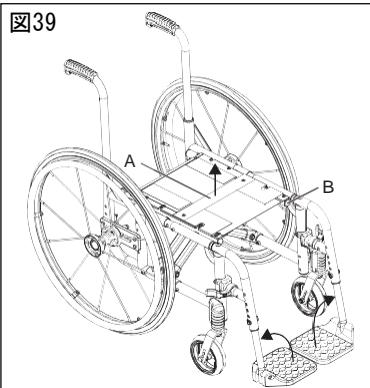


# V. 車椅子のセットアップと使用

## T. フレームの折り畳み

注:車椅子に傷がつかないよう、硬い面に当たらず開閉できるスペースを確保してください。

1. フレームを折りたたむ前に、座面やバックサポートに取り付けられているクッションなどの付属品をすべて取り外します。
2. フットプレートを跳ね上げます。
3. スリングシートを水平に横切るストラップ(図39:A)を上に持ち上げます。これにより、クロスプレースサポートがシートフックから外れ、椅子が折り畳めるようになります。
4. フレームを開くには、シートカバーをフレームに固定しているクロスプレースチューブ(図39:B)の片側を押し下げます。ホリゾンタルクロスプレースサポートがシートフックに完全にかみ合うまで押し下げます。



## U. シート生地

1. 傷んだシート生地やバックサポートのクッションは、すぐに交換してください。そうしないと、座席やバックサポートが破損することがあります。
2. スリングシートの素材は経年劣化します。特に端や縫い目の部分に、ほつれやほつれがないか確認します。これは毎週行う必要があります。
3. 車椅子へ乗り降りする頻度が高い場合、スリングシートが弱くなるペースが速いため、より頻繁に座席の点検と交換が必要になります。
4. 洗濯のし過ぎや過剰な湿り気は、生地の難燃性を低下させます。
5. 座面やバックサポートに不安がある場合、または交換が必要な場合は、車椅子の提供者に連絡してください。

### ▲ WARNING ▲

警告:これらの指示に従わないと、車椅子が損傷したり、転倒したり、制御不能に陥ったりして、使用者や他の人に重傷を負わせる可能性があります。

# V. 車椅子のセットアップと使用

## AA. ブレーキ

Catalystには、数種類のブレーキのうちの1つがあらかじめ取り付けられて出荷されます。

- 押し掛けブレーキ
- 引き掛けブレーキ
- フラットレベル押し掛けブレーキ
- ショートスルーシザーロック

クランプアセンブリは、すべてのブレーキに対し同様に機能します。

- a. 5mm六角レンチを使用し、クランプを固定しているネジの1本を緩めます(1回転未満)。
- b. もう1本のネジも同様に実施し、クランプを調整します。
- c. クランプを後輪のほうへ下げるとき、ブレーキがタイヤを押さえつけてホイールの回転を防ぎます(図44)。
- d. ロック時に、ブレーキがタイヤに1/8インチ(3.2mm)以上食い込んでいることを確認してください。これを怠るとロックが動かないことがあります(図45)。
- e. ネジを締め直します。

注:ハードウェアを緩める/締める際は2本のボルトを交互に緩め/締めます。これによりハードウェア1セットでのオーバークランプが防止され、ネジの噛み込みや緩み難さが増します。

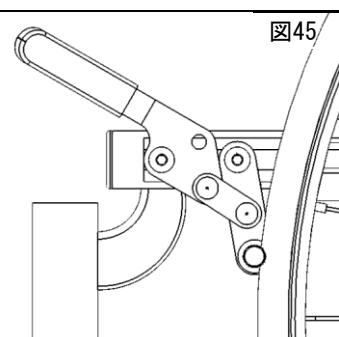
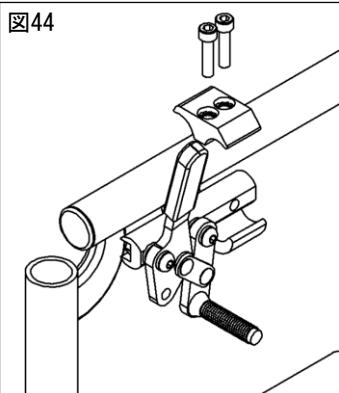
ブレーキのクランプには11.3 N\*mの力が必要です。

リアブレーキは、走行中の車椅子を減速または停止させるように設計されていません。椅子が完全に停止したときに、後輪が動かないようにするために使用してください。

- 車椅子が動いているときは、決してリアブレーキを使って減速したり止めたりしないでください。制御不能に陥ることがあります。
- 車椅子が動かないよう、移乗時には必ず左右両方のブレーキをかけてください。
- リアタイヤの空気圧が低いと、ブレーキがうまくタイヤに食い込まず、ブレーキが滑って予期しないときにホイールが回転する可能性があります。
- ロック時に、ブレーキがタイヤに1/8インチ(3.2mm)以上食い込んでいることを確認してください。これを怠るとロックが動かないことがあります。

### ⚠ DANGER ⚠

危険:本取扱説明書を読まなかったり、従わなかったりすると、転倒や制御不能の状態に陥り、使用者その他に重大な危害を及ぼす恐れがあります。



# V. 車椅子のセットアップと使用

## BB. キャスターフォーク

キャスターフォークによりキャスターの交換や前席の高さ調整が可能です（図46）。調整するには

- アクスルナットを緩め、アクスルを取り外します。
- キャスターを1/2インチ（1.27cm）刻みで上下に変更し、前座高を変更できます。
- 外したアクスルを取り付け、ナットを締めます。

別のキャスターが必要な場合は、新しいキャスターと既存のキャスターの直径の差を考慮します。仮にキャスターの直径を1インチ（2.54cm）変更する場合、直径が大きくなるなら一つ上の穴、小さくなるなら一つ下の穴を使用すると前座高は変わりません。

前座高を変更した場合、キャスター角の直角を出す必要があります。

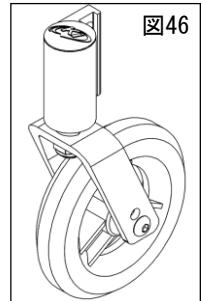


図46

## CC. キャスター角調整

### スタンダードキャスターハウジング

キャスターハウジングは地面に対して常に90度の角度（地面に垂直）にしてください。特殊な留め具と偏心ナット（図47）で調整します。

- キャスターハウジングの角度を変更するには、車椅子を平らな面に配置することをお勧めします。
- フレームの内側からボルトを取り外します。
- テーブルとキャスターハウジングの正面に直角の定規を配置して、ハウジングを位置合わせします。
- ボルトをフレームに押し込みます。
- 偏心ナットを単独で回転させ、ボルトとキャスターハウジングのスロットの両方に適合させます。
- ハウジングの角度が直角からはずれないよう注意しながら2つのボルトをゆっくり締め直します。
- 反対側も同様に実施します。

### パフォーマンスキャスターハウジング

キャスターハウジングは地面に対して常に90度の角度（地面に垂直）にしてください。

- キャスターハウジングのタブを少し外側に引き、保護カバー（図47:A）をまっすぐに持ち上げて取り外します。
- 2本のソケット頭ネジの位置を確認します（図47:D）。5mm六角レンチを使用して、各ネジを2回転緩めます。
- 調整ネジ（図47:B）の位置を確認します。5mm六角レンチを使用して時計回りに回すとキャスターフォークが前に、反時計回りに回すとキャスターフォークが後方に移動します。床面に対して90°の角度に調整します。
- キャスターバレル（図47:C）に直角の定規を当て、キャスターが地面に対し垂直であることを確認します。その後、ソケットヘッドボルト（図47:D）を締め直して固定します。
- 保護カバー（図47:A）を取り付け反対も同様に実施します。

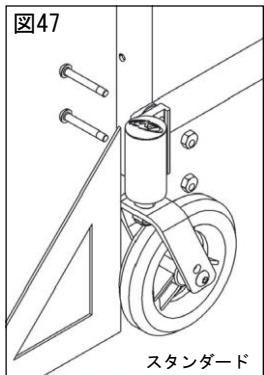
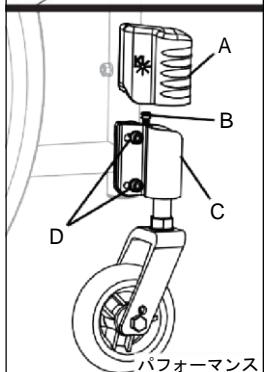


図47



スタンダード

パフォーマンス

# V. 車椅子のセットアップと使用

## DD. 転倒防止装置(オプション品)

転倒防止装置は、車椅子が後ろに倒れるのを防ぐのに役立ちます。適切に調整すると、後方の安定性が大幅に向上がります。不整地、傾斜、斜面、その他の地形を走行することによって重心が変化し、安定性に影響を受ける可能性があります。あなたの安定性は、他の力があなたとあなたの車椅子に作用することによっても影響される可能性があります。例えば、誰かがあなたのプッシュハンドルやあなたの車椅子の他の部分を押し下げたり、寄りかかったりします。これは最も経験豊富な車椅子使用者にも起こります。あなたの環境にいる人は、それがあなたの安定性に影響を与えていていることを必ずしも理解していません。

### ▲ WARNING ▲

**警告:**Ki Mobilityは、転倒防止装置の使用を強く推奨しています!転倒防止装置は常に使用する必要があります。不整地を走行したり、混雑した空間にいたりすると、予期せぬ事態が発生し、体勢が急激に変化して転倒し、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

#### 1. 転倒防止装置の取り付け(図48)

- 転倒防止チューブの2つ目のボタンを押し、前側のボタンが内側に引っ込んだ状態にします。
- 転倒防止チューブをサイドフレームに取り付けたレシーバーに挿入します。
- 小車輪が地面に隣接するまで、転倒防止チューブを下方に回転させます。これで、ボタンがレシーバーの穴に位置合わせされます。ボタンを放すと、レシーバーとかみ合います。
- 反対側も同様に実施します。

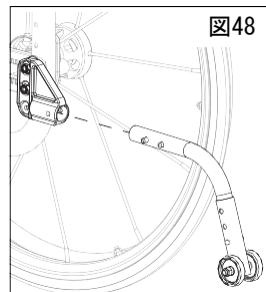


図48

#### 2. 転倒防止レシーバーの位置調整(図49)

転倒防止レシーバーは、車椅子の設定を変更する場合に調整する必要があります。その場合、次の手順に従います。

- 転倒防止レシーバーと車椅子のサイドフレームをつなぐボルトを外します。
- 穴は1インチ(2.54cm)刻みで、フレーム上で上下に調整することができます。ブラケットを目的の高さに配置します。
- ボルトを再挿入して締めます。(ボルトがアームレストとアクスルプレートにも接続されている場合、追加のハードウェアについてサプライヤに問い合わせる必要があります。)
- 反対側も同様に実施します。左右の高さを合わせます。
- 転倒防止チューブ取り付けます。

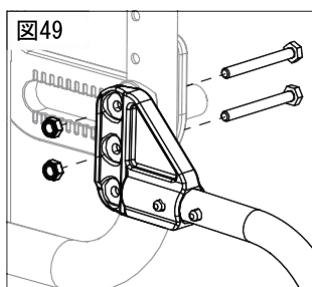


図49

**危険:**これらの指示を読み、注意しないと、車椅子が損傷したり、転倒したり、制御不能になったりし、使用者や他の人に重度の怪我を負わせる恐れがあります。

### ▲ DANGER ▲

## V. 車椅子のセットアップと使用

### DD. 転倒防止装置(オプション品)

#### 3. ホイールエクステンションの高さ調整(図50)

転倒防止装置は、小車輪と地面との適切なクリアランスである1½インチ～2インチ(3.81cm～5.08cm)を保つため、高さを調整する必要があります。

- a. 戻り止めのボタンをチューブの壁の内側まで押します。これにより、外側のチューブを上下にスライドさせることができます。
- b. 目的の高さに延長チューブを上下にスライドさせます。
- c. ボタンを放します。
- d. 反対側も同様に実施します。左右同じ高さになるよう調整してください。

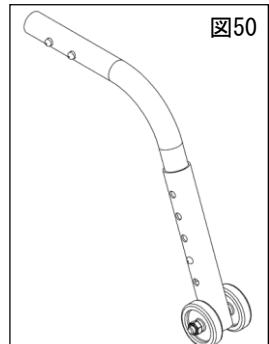


図50

#### 4. 転倒防止チューブの跳ね上げ(図51)

介助者に押されたり、縁石を登ったり、障害物を乗り越えたりする際は転倒防止チューブを上に上げる必要があります。

- a. 転倒防止チューブの2つ目のボタンを押し、前側のボタンを引っ込みます。
- b. ボタンを押したまま、転倒防止チューブを上に回します。
- c. ボタンを放します。
- d. 反対側も同様に実施します。
- e. 転倒防止チューブを上げておく必要が無くなったら、なるべく早く下げてください。

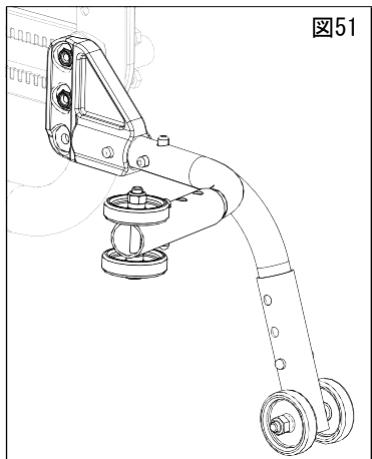


図51

## V. 車椅子のセットアップと使用

### EE. スイングイン転倒防止装置(オプション品)

転倒防止装置は、車椅子が後ろに倒れるのを防ぐのに役立ちます。適切に調整すると、後方の安定性が大幅に向上がります。不整地、傾斜、斜面、その他の地形を走行することによって重心が変化し、安定性に影響を受ける可能性があります。あなたの安定性は、他の力があなたとあなたの車椅子に作用することによっても影響される可能性があります。例えば、誰かがあなたのプッシュハンドルやあなたの車椅子の他の部分を押し下げたり、寄りかかったりします。これは最も経験豊富な車椅子使用者にも起こり得ます。あなたの環境にいる人は、それがあなたの安定性に影響を与えていていることを必ずしも理解していません。転倒防止装置が収納位置にある場合、キャップを下向きに押し、そのまま転倒防止装置をレシーバーに固定されるまで椅子の中心に向かって回転させます。車椅子をご使用になる前に、転倒防止装置が正しく、しっかりと固定されていることを必ず確認してください。収納するには、キャップを下向きに押し、反対向きに回転させます。

#### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**転倒防止装置を片側のみ使用している場合は、安定性を維持するために特に注意してください。片側の転倒防止装置の逆方向に重心が寄ると、不安定になり、転倒して重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

#### 1. 転倒防止レシーバーの位置調整(図52)

転倒防止レシーバーは、車椅子の設定を変更する場合に調整する必要があります。その場合、次の手順に従います。

- a. 転倒防止装置のレシーバーと車椅子のサイドフレームをつなぐボルトとナットを取り外します。
  - b. 穴は1インチ(2.54cm)刻みで、フレームの上方または下方に移動できます。ブラケットを目的の高さに配置します。
  - c. ボルトを再挿入して締めます。(ボルトがアームサポートとアクスルプレートにも接続されている場合、異なる長さのボルトや追加のハードウェアが必要になる場合があるため、サプライヤーに問い合わせる必要があります。)
  - d. 反対側も同様に実施します。ブラケットは左右同じ高さにします。
2. 転倒防止装置を回転させる
    - a. 転倒防止装置上部のノブ(図53:A)を押し下げます。
    - b. 転倒防止装置を車椅子の内側に向けて振ります。
    - c. 反対側も同様に実施します。
  3. ホイールエクステンションの高さを調整する。

転倒防止装置は、小車輪と地面との適切なクリアランスである1½インチ～2インチ(3.81cm～5.08cm)を保つため、高さを調整する必要があります。

- a. 戻り止めボタン(図54:A)を押します。これにより、外側チューブを上下にスライドさせることができます。
- b. 目的の高さに延長チューブを上下にスライドさせます。
- c. ボタンを放します。
- d. 反対側も同様に実施します。左右同じ高さに設定します。

図52

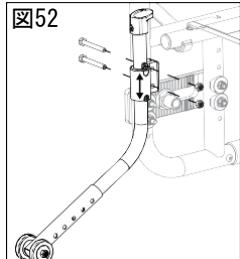


図53

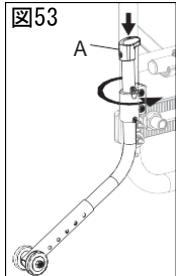
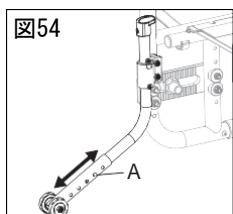


図54



# V. 車椅子のセットアップと使用

## FF. シートスリング

シートスリングには、椅子の折り畳みを補助する目的でストラップがシートに付いています。

NOTE: シートスリングフォールディングストラップは、キャリングストラップとして使用するものではありません。

## GG. クッションの利用

a. Catalystは、適切な車椅子クッションとともに使用するように設計されています。

### ⚠ DANGER ⚠

**危険:** 適切な車椅子用クッションがない状態で長時間座っていると、褥瘡が発生し、そのままにしておくと死に至る可能性があります。

- b. 標準シートスリングには、ループマジックテープ式ファスナーストリップを備えています。使用するクッションには、シートスリングのループに係合してクッションが下から滑り落ちないようにするマジックテープ式の留め具が必要です。移動や車椅子に座る前に、クッションがしっかりと固定されていることを確認してください。
- c. 車椅子に標準シートスリングが付いていない可能性があります。元の機器のスリングのアフターマーケットリプレースが提供されているかどうか、車椅子のプロバイダーに確認してください。その場合は、アフターマーケットのメーカーが提供する使用方法に従ってください。

### ⚠ WARNING ⚠

**警告:** クッションを固定しないと、使用中や移動中に滑り落ちたり、転倒や制御不能に陥り、重傷や死亡の原因となります。

## HH. 酸素ボンベホルダー

### 1. 使用方法

この酸素ボンベホルダーは、ボンベを車椅子に固定するように設計されています。ボンベがホルダーの底までしっかりと固定されていることと、クランプがボンベを引き出せないところまで締められていることを確認してください。

酸素ボンベは危険な場合がありますので、必ずボンベ業者の指示に従ってください。

### ⚠ DANGER ⚠

**危険:** これらの指示や、ボンベのプロバイダーから提供されたボンベに関する取扱説明を守らないと、重傷または死亡の原因となります。

# V. 車椅子のセットアップと使用

## II. キャノピー

### 1. 折り畳み(図55)

a. クローズ - キャノピーの前端を持ち上げ、後ろ端までキャノピーを邪魔にならないように折ります。

b. オープン - フロントエンドを持ち、キャノピーが完全に開くまで引き出します。

### 2. 取り付けと取り外し(図55)

a. キャノピーの両側のラッチを押し込み、引き上げてレシーバーから取り外します。

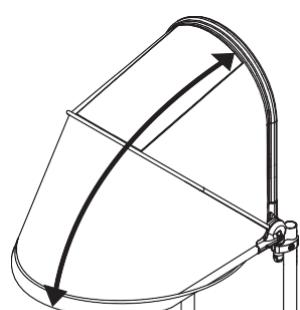
b. キャノピーを再び取り付けるには、ラッチがチューブマウントクランプの底部に引っかかるまでレシーバーに両端を取り付け、所定の位置に「ロック」します。

### 3. レインキャッチ(図55)

a. キャノピーの端は折り畳まれており、雨をキャッチしユーザーにかかりにくい構造です。

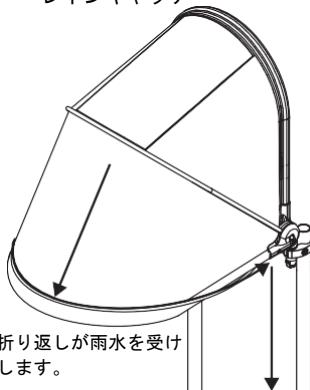
図55

折り畳み



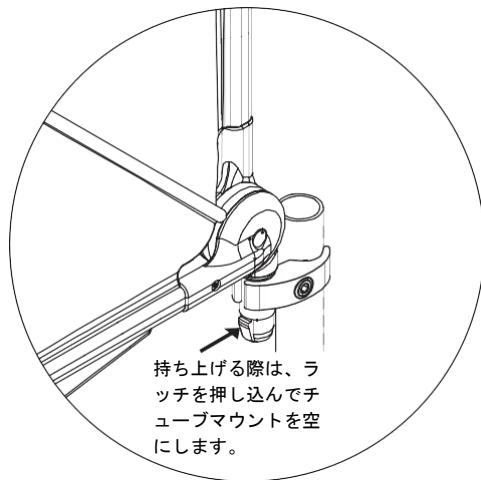
引き上げ/引き下げ

レインキャッチ

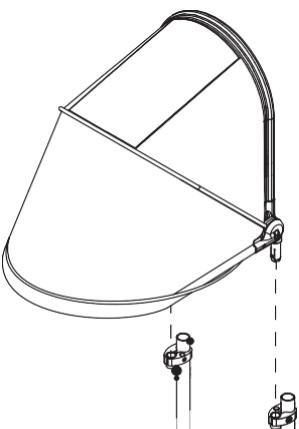


降雨時、淵の折り返しが雨水を受け止め後ろへ流します。

取り付けと取り外し



持ち上げる際は、ラッチを押し込んでチューブマウントを空にします。



## VI. メンテナンス

### A. 車椅子の点検

日常的かつ定期的なメンテナンスにより、車椅子の寿命が延び、パフォーマンスが向上します。車椅子の修理と部品の交換は、販売店または資格のある技術者が行う必要があります。

#### 1. 一般検査

- a. 少なくとも月に一度は車椅子を清掃してください。職場など汚れやすい環境で使用する場合は、より頻繁に清掃する必要があります。
- b. すべての留め具が締まっていることを確認してください。特に明記されていない限り、締め付けトルクは40インチ/ポンド(4.52N·m)です。
- c. タイヤとキャスターの点検
  - タイヤのトレッド摩耗を確認します。タイヤにフラットスポット、目に見える亀裂がある場合、またはトレッドが摩耗している場合は、タイヤを交換します。
  - バルブシステム付きのエアータイヤを使用している場合は、空気圧を確認し、タイヤのサイドウォールに記載されている圧力に設定します。

#### DANGER

**危険:**摩耗したタイヤは交換してください。タイヤのサイドウォールに表示される空気圧を維持できない場合、ホイールロックが適切にグリップしません。これにより、転倒または制御不能に陥り、重傷または死亡を引き起こす可能性があります。

- d. ホイールのスパークが緩んでいないか確認します。
- e. ホイールロックを確認します。タイヤが摩耗すると、ホイールロックを調整する必要があります。39ページセクションAA. ブレーキを参照してください。
- f. シートスリングに破れやたるみがないかチェックしてください。張りは時間が経つと伸びるため、きつく調整できるよう設計されています。38ページ セクションZ. 「シート生地」を参照してください。

## VI. メンテナンス

### A. 車椅子の点検

毎週

- a. ホイールロックをチェックし、正しく調整されていることを確認します。
- b. 車軸スリーブをチェックし、車軸スリーブのナットが締まっていることを確認します。
- c. スポークに破損、曲がり、緩みがないか確認します。
- d. キャスターが自由に回転することを確認します。
- e. タイヤとキャスターの摩耗を点検します。
- f. エアータイヤの場合、空気圧が適正か確認します。
- g. ハンドグリップが回転したり、外れたりしないようにしてください。

毎月

- a. 後輪の車軸を点検し、必要に応じて締めます。
- b. キャスターハウジングペアリングへ毛髪等の蓄積を確認し、必要に応じて取り除きます。
- c. ホイールロックを点検し、アセンブリがしっかりと締まっていること、ホイールロックがタイヤに適切にかみ合っていることを確認してください。
- d. すべての留め具がしっかりと固定されていることを確認します。
- e. フレームに変形、欠陥、亀裂、窪み、または曲がりがないか検査します。これらはフレームの疲労の兆候である可能性があり、車椅子の故障につながる可能性があります。車椅子の使用を直ちに中止し、販売店に連絡してください。

毎年

- a. 車椅子販売店による点検と調整を依頼してください。

### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**調整後、この車椅子を使用する前に、すべての留め具がしっかりと固定されていることを確認してください。深刻なけがや損傷が発生する可能性があります。

### ⚠ CAUTION ⚠

**注意:**留め具を締めすぎないでください。フレームが損傷する可能性があります。

### ⚠ DANGER ⚠

**危険:**本書の指示を読み、従わない場合、ユーザーまたは他の人が重傷を負ったり死亡したりする可能性があります。

## VI. メンテナンス

### B. 洗浄

#### 1. 車軸とホイール

- a. 湿った布で毎週車軸と車輪の周りを掃除してください。
- b. 髪の毛や糸くずがキャスターハウジングに詰まります。もつれたそれらを取り除くため、6か月ごとにキャスターハウジングを分解します。

**注:**この車椅子にWD-40や他の浸透オイルを使用しないでください。これにより、シールドベアリングが破壊されます。

**注:**キャスター やタイヤに化学洗浄剤を使用しないでください。

#### 2. シート生地

- a. 機械洗浄は生地にダメージを与えますので、手洗いにて洗浄してください。
- b. 機械乾燥は生地にダメージを与えますので、通常の吊り干しにて乾燥させてください。

### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**これらの指示を読み、従わない場合、車椅子の損傷、転倒、制御不能を引き起こし、ユーザーや他の人に重傷を負わせる可能性があります。

### C. 保管

- a. 車椅子を使用しないときは、錆びや腐食の発生を防ぐため清潔で乾燥した場所に保管してください。
- b. 車椅子が数週間以上保管されている場合、正しく機能することを確認してください。必要に応じて、セクションA.「車椅子の点検」のすべての項目を実施し、整備する必要があります。
- c. 車椅子が2か月以上保管されている場合、使用前に販売店による検査と点検が必要です。

### ⚠ WARNING ⚠

**警告:**これらの指示を読み、従わない場合、車椅子の損傷、転倒、制御不能を引き起こし、ユーザーや他の人に重傷を負わせる可能性があります。

# VII. 保証

Ki Mobilityは、この車椅子のフレーム、ハンガー、クロスプレース、およびケイックリリースアクスル(車軸)が、最初の購入者の生涯にわたって材料および製造上の欠陥がないことを保証します。この車椅子のその他すべてのKi Mobility製の部品およびコンポーネントは、Ki Mobilityより出荷された日から1年間、材料および製造上の欠陥に対して保証されます。

## 保証対象外

1. 下記については保証されません。
  - a. 消耗品類：シート類、タイヤ、アームサポートパッド、チューブ、アームサポートやパッショハンドルのグリップなど。
  - b. 放置(メンテナンスの不実施)、不注意、事故、誤用、または不適切な設置または修理に起因する損傷。
  - c. 耐荷重制限を超えて使用された場合。
2. 車椅子のシリアルナンバータグが削除または変更された場合、この保証は無効になります。
3. 車椅子が元の状態から改造や加工がなされ、その変更が故障の原因であると判断された場合、この保証は無効になります。
4. この保証は譲渡できません。(株)ユーキ・トレーディングの販売店を通じて最初に購入されたご利用者にのみ適用します。

## Ki Mobilityの対応

私たちの唯一の対応可能な責任範囲は、対象部品の修理または交換です。

## 製品ご利用者様に対応いただきたいこと

- a. 保証期間内に対象製品の状況や不具合を申し出てください。
- b. 製品に関する不具合の申告や修理依頼は、製品を購入された販売店を通じておこなってください。ここで示した保証以外で、市場におけるあらゆる慣例や暗黙のルールなどによる保証は除外されます。
- c. 部品の修理や取り付けにかかる人件費をお支払ください。



CE

DCN0082.9